

令和3年度の教育活動等に対する学校評価書

令和4年3月26日

学校関係者評価委員会
認定こども園曙幼稚園

委員長 勝亦 誠
園長 草分 寛



- 1 保育方針 たくましく生きる子どもを育てよう（眼を放すな、手を離せ）
- 2 本年度の重点目標
 - (1) 幼保連携型認定こども園として保護者の就労支援など社会的インフラの役割を果たす。
 - (2) 環境をとおした保育を行い子ども達の意欲を育てる。
 - (3) 安全管理及び事故防止の徹底を図るとともに危機管理態勢を強化する。

3 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

評価点 4（あてはまる）、3（大体あてはまる）、2（あまりあてはまらない）、1（あてはまらない）、※（その他）

評価項目	自己評価		学校関係者評価委員	
	滿	園としての反省と改善策	滿	意見
園児の人権に十分配慮し、園児一人一人の人格を尊重した教育・保育を行っている。	4	子ども達の気持ちに寄り添いながら、「生きる権利」、「育つ権利」、「守られる権利」、「参加する権利」を意識して、教育保育に取り組んだ。	5	子どもの自らの考えを伝える力を付けるために努めていることはとても良いことだと思料する。意見表明権について、自らの権利として自分の意見がはっきりと言える子を今後とも育てていてもらいたい。
保育教諭等は、園児の主体的な活動が確保されるよう、園児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成している。	4	子ども達の興味・関心は、現在何にあるのかを察知しながら、保育者として子ども達に育ててもらいたいことに子ども達が自然に興味・関心が向くように環境を設定しつつ、子ども達の主体性と教育内容の進度に整合を図り教育保育を行った。	5	子ども達を取り巻く環境、教育・保育の要領は、この10年で大きく変わっているが、子ども達に育ててもらいたいことは不変的に存在する。引き続き、子ども達の主体性と計画的に進むべき内容の方向性と進度の両立に努めてもらいたい。
幼保連携型認定こども園における教育及び保育は、園児が自ら意欲を持って環境とかかわることによりつくり出される具体的な活動を通して、その目標の達成を図っている。	4	子ども達が意欲的に活動に参加し、前向きに自らの意思で活動に取り組めるように教育保育を行った。	5	子ども達が意欲的に活動するためには、子どもの本質的な特性を理解し、環境を構成する必要がある。楽しいこと、レベルが少し難しが頑張れば出来そうなことなどがある。引き続き、子ども達が意欲的に活動できる環境構成に努めてもらいたい。